

## 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	1473500591		
法人名	株式会社 保健科学研究所		
事業所名	グループホームさくら園		
所在地 (電話番号)	横浜市栄区金井町1600		(電 話) 045-858-3038

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	横浜市港北区新吉田東5-76-35		
訪問調査日	平成19年8月3日	評価確定日	平成19年9月16日

(平成19年5月25日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成 17年 8月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 12 人, 非常勤 6 人, 常勤換算 12.8 人	

## (2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	木造造り	
	2 階建ての	1 階 ~ 2 階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	70,000 円	その他の経費(月額)	36,000 円
敷 金	有( 円) (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有) ( 300,000円) 無	償却の有無	有(無)
食材料費	朝食	200 円	昼食 400 円
	夕食	500 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 1,200円		

## (4) 利用者の概要(5月25日現在)

利用者人数	18 名	男性 6 名	女性 12 名
要介護1	2 名	要介護2	9 名
要介護3	5 名	要介護4	2 名
要介護5	名	要支援2	名
年齢	平均 77.8 歳	最低 70 歳	最高 91 歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	港南台病院、西横浜国際病院、古谷歯科医院
---------	----------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

① 環境 ・周囲を神社、お寺、田園に囲まれた自然豊かな中にある。
② 介護 ・法人の介護事業部作成の多岐にわたるマニュアルによる指導が徹底していて、職員の介護への向上意識は高い。 ・町内会、地域住民との交流に努め、家主の協力を含めて地域密着を目指している。 ・医療連携体制は完備されていて、入居者に安心感を与えている。 ・豊かな自然環境の中を毎日散歩し、ホーム内に閉じこもることは少ない。
③ 研修 ・OJTを主体としてユニット毎に自主性を重視し、ミニカンファレンス等を通じて実践教育をしている。
④ その他 ・ターミナルケアは家族要望に応じて可能な限り応じる体制にある。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での課題については、順次改善の努力が見られる。例えば、定期的な職員会議の開催、内外の研修の充実、地域住民との密接な交流など顕著な改善があった。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	・職員全員が新評価方式を研修し、全員が自己評価に取り組んでいる。 ・自己評価の意義を職員が理解し、日々のサービスの取組みに活かすべく努力している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	・8月に家族、地域、行政をメンバーに入れた運営推進会議を計画し、地域との密着及びサービスの質の向上を目指している。 ・区に足を頻繁に運び、行政窓口との連絡を密にしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	・家族の来訪は気軽に行われており、その都度本人の日頃や行事での状況を報告している。 ・来訪できない家族には毎月、写真等郵送で日頃や行事での状況を知らせている。 ・家族の来訪時に意見、希望などを聴取し、サービスへの反映に努めている。 ・苦情処理システムはできている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	・町内会に加入し、地域の行事への参加を積極的に行っている。(お祭り、敬老会など) ・町内会のお祭り時に駐車場を開放し、お神輿の休憩や模擬店の場所を提供している。 ・施設の行事(夏祭りのバーベキュー大会、花火大会など)には地域の子供も参加し、地域と密着した活動を行っている。

## 2. 評価結果（詳細）

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	・利用者の人格尊重と生活環境への配慮、及び地域への融合をめざした理念があり、玄関、事務所、フロアに掲示している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	・各フロアのキッチンの目につく位置に理念を掲示している。 ・職員は理念を意識し、日常のサービスに活かすべく取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	・町内会との交流に努め、地域の行事への参加(お祭りなど)を積極的に行っている。駐車場を御神輿の休憩、待機場にし、模擬店場所に解放している。 ・夏のバーベキュー大会や、花火大会には地域の子供も参加して一緒に楽しんでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	・昨年の外部評価の指摘事項は、順次見直し改善を行った。 ・新評価内容の勉強会を職員で行った。 ・2階フロアでは各職員が自己評価を記入しフロアリーダーがまとめ、1階フロアでは毎日のミニカンファレンスで話し合っってフロアリーダーがまとめ、最終的には管理者がまとめた。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・8月に開催を予定している。家族、大家、民生委員、地域ケアプラザの主任ケアマネージャ、行政の出席を予定している。	○	・今後定期的な運営推進会議を開催し、ホームの実情説明、外部からの助言などを得て、課題解決、サービス充実、地域との密着を図ることが期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	・郵送で済むところを区に足しげく通い、担当者との連携密な関係を築いている。 ・区の生活保護担当者が頻繁に訪問し、意思疎通ができています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	・さくら園通信(日常・行事の本人の写真など)、及び現金管理報告書として領収書・使途・出納残高を、毎月郵送している。 ・来訪家族には直に面談して状況を伝えている。 ・来訪できない家族には電話で状況を伝えている。 ・利用者の生活状況をお知らせする手紙の様式を作り、秋には郵送報告も始める計画である。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・苦情処理システムはできている。 ・家族来訪時、行事時などの機会に家族意見、要望を聞き、連絡ノートに記録して、サービス反映に努めている。 ・例として、外出機会が少ないとの指摘があり、現在はほぼ毎日の散歩、近隣への車による外出行事を企画・実行している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	・職員の半数は設立当初から在勤しており、できるだけ利用者との馴染みの関係を維持するよう努めている。 ・職員退職、変更による利用者へのダメージはない。退職時の利用者への挨拶有無は職員に任せている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・入社時はオリエンテーションを行い、その後は業務遂行課程で管理者、フロアリーダーによる教育が主である。 ・3年以上の勤続職員は認知症高齢者実践者研修派遣し、研修終了後は報告書を提出し、実践への反映に努めている。	○	・新人職員を含めて、計画的に職員の育成を目指す法人内外の研修を計画・実施することにより、職員のレベルアップ・定着が期待される。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・栄区のブロック単位のグループホーム連絡会が3ヶ月毎にあり、情報交換、持ち回り講義など工夫して研鑽している。前回は6月、次回は9月である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	・管理者、フロアリーダーが家族、本人と会いアセスメント情報を得るが、必要に応じて入居前に3日～1週間の体験入所を行う。これらを通じて問題点を把握し介護目標設定に反映している。 ・利用者はこの過程で施設への自然な溶け込みが可能になっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	・調理の準備、後片付けに利用者が参加している。 ・職員は利用者から、ご苦労様、少し休憩しなさい、と声をかけられるなど、心の通い合いをお互いに感じている。 ・職員は、利用者の誕生会、季節の行事などを、共に過ごして喜び合っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
えんす					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・日常の会話や観察を通じて一人ひとりの思いを把握し、連絡ノート、個人のケース記録に記入して、職員で情報を共有している。これらをもとにミニカンファレンスなどで検討しサービスに反映している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	・毎日のミニカンファレンス、毎月のカンファレンスで情報を検討した意見をもとに介護計画を作成する。家族に送付し意見を貰い、最終決定している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	・短期目標は3ヶ月毎、長期目標は6ヶ月毎に見直しを行い、その都度家族意見を確認している。 ・期間途中で変化を生じた場合は家族と電話連絡をとり計画を見直している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	・通院時の職員による付き添い支援、早期退院支援など、医療施設との提携に応じた臨機応変な支援体制をしている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・事業所が契約した医療機関(内科、整形外科、精神神経科、歯科など)による診療体制が出来ていて、受診をしている。個人別ケースファイルの介護記録に受診結果の詳細記録がされている。家族、本人の希望があれば従来のかかりつけ医を継続している。 ・定期健康診断を受診している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	・必要な時期に近づいた時点で家族と相談する。 ・家族の要望が優先するが、可能な限りターミナルケアを行う方針である。家族・医療機関との連携をとっている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	・職員の利用者への言葉かけや対応に問題点は見られなかった。 ・対応において不適切な場面があればリーダーが都度注意を促している。 ・個人情報保護、秘密保持、情報漏洩、プライバシー保護等についてはリーダー会議や毎月の会議で注意を促している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・パンフレットにも「ゆったり、のんびりすごしていただく…」と掲げているとおり、一人ひとり自由に過ごせるように配慮している。 ・朝見かけた散歩や、昼食では、一人ひとりのペースが守られていた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・業者委託の食材が基本であるが、弁当にして公園に行くなど楽しさを工夫している。</li> <li>・食事の準備、調理の手伝い、後片づけに当日も利用者がすすんで参加していた。</li> <li>・食事中は静かな音楽をかけ職員も一緒に楽しそうに食べていた。</li> </ul>		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・午後の時間帯で1人あたり週2回以上の入浴を目標にしている。</li> <li>・入浴の順番は公平になるように配慮している。</li> <li>・時間帯、入浴時間の長さについて、全ての利用者の要望に沿うのは難しいが極力配慮している。</li> <li>・夏期に入りシャワーなどの追加を検討している。</li> </ul>		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本人の生活歴、残存能力、希望等を勘案し、可能と思われる役割はお願いしている。具体的には、共用スペースの掃除、調理、食事の片づけなどを職員と一緒にしている。</li> <li>・楽しみ事では、買い物、季節ごとのお出かけ、誕生会など多彩に企画実行している。</li> </ul>		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・雨天をのぞき、毎日午前と午後、個人の体力、状態に応じて班分けして全員散歩に出かけている。</li> <li>・その日の希望でコースを決めており、歩行困難な方は車椅子を使用している。</li> <li>・家族からの要望もあり、近場から徐々に遠方へ、行き先も買い物、外食、行楽など充実し、頻度も多くなっている。</li> </ul>		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・居室、2階のユニット、玄関は施錠していない。</li> <li>・一階のユニットの出入口は安全面から鍵をかけている。</li> </ul>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・消防計画原案はできており、目下、法人本部と検討中である。</li> <li>・運営規程には非常災害対策の指針が規程されている。</li> <li>・消火器は各フロアーに設置されている。</li> </ul>	○	非常災害対策のマニュアル作成、訓練計画と実施、地域住民や消防署、警察との連携体制の構築などが期待される。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食材は業者委託であり管理栄養士が献立を作成し、栄養バランスが管理されている。</li> <li>・個人別の摂食量、水分量をチェックし記録している。</li> <li>・入所前調査による食事カルテ、入所後の日々の食事の様子、食べ残し等で個人の趣向を把握している。</li> <li>・肉→魚、カレー→シチュウなどの糖尿病の方に対応したメニューを作っている。</li> </ul>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・共用空間には不快な音、光、臭いはなく、清掃も行き届いている。周囲の自然環境が良く、換気も適宜行っており、居間は爽やかな空間になっている。</li> <li>・厨房と居間の間は壁のないオープンカウンターであり、日常の生活感が漂っている。窓越しに季節を感じることができ、自然に恵まれた環境にある。</li> <li>・和室が居間に続いており家庭的な雰囲気をつくっている。</li> </ul>		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・居室は入居時はエアコンのみ設置してあり、それ以外は全て利用者の持ち込み品である。</li> <li>・家具・電気製品、飾り物を含む小物まで思い思いのもの、使い慣れたものが持ち込まれ、それぞれ安心と落ち着きを漂わせる居室となっていた。</li> </ul>		